

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201926		
法人名	社会福祉法人 アソカ仁寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 あそかのもり 1階		
所在地	長崎県佐世保市松瀬町1171番地1		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	令和2年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和元年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度のフロアーの目標を「観察力を高め思いやりを持って声かけを行なう」と決めご利用者一人一人を観察し、小さな事にも気付く力を持ち、理念に基づきご利用者に思いやりを持って声かけを行なうように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念「笑顔と礼儀・愛情と真心」は自分の両親を入居させたいと思える施設にしたいとの代表の思いが込められている。フロア目標を掲げ、3ユニットが連携し、笑顔での対応や思いやりを持って声掛けするなど、本人の思いや習慣、ペースを大切に介護に取り組んでいる。特に今期は家族等の協力もあり、外出、外食の個別支援に注力し、利用者の「行きたい」「食べたい」の希望に沿っている。また、利用者同士が支え合い、できることを役割分担し、本人の生活への意欲と張り合いのある暮らしとなっている。毎月の写真満載のホーム便りは日常が把握でき、家族等の協力や安心と信頼に繋がっている。介護計画は担当者が本人の日々の生活を把握し計画に繋げている。職員間のチームワークの良さは事業所の強みであり、手作りのゲームを笑って楽しむ様子が覗え、和やかに温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに掲示している施設理念、「笑顔と礼儀」「愛情と真心」を基本とし共有し実践している。	法人理念である「笑顔と礼儀」「愛情と真心」を基にして、毎年フロア毎に独自の目標を決め、日頃の支援を振り返り細かい検討を行うことで、管理者と職員が理念を共有している。笑顔で言葉遣いに気をつけ、多く声掛けするなどの実践に理念の具現化がみえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域の公民館祭りに参加。職場体験の受け入れ、幼稚園児との交流に努めている。月に1回、地域の清掃活動も行っている。	毎月、職員が地域の清掃活動を実施し、地区公民館祭りには利用者と共に参加している。毎年の介護教室の開催や幼稚園児との交流、踊りや音楽演奏のボランティア、高校生の職場体験の受け入れなど地域との関わりを深め、法人全体が福祉のサポート役として地域に浸透している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で年に一度、介護教室を開催し質問・相談を受け説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し状況等を報告している。助言・指摘に対して、全職員で改善に取り組んでいる。	年6回規定の参加者で開催し、事業所の取り組み状況を詳細に報告し、質疑応答を行っている。地区代表や民生委員から地区の情報を得る他、市担当者からヒヤリハットや事故報告についての助言など参加者の意見をサービス向上に活かしており、議事録は現状を詳細に記載している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員に運営推進会議へ出席して頂き、助言等を頂いている。また、分からない事は連絡を取り、相談をしてアドバイスを頂いている。	介護保険申請やわからないこと、困りごとの相談に行政担当課窓口を訪ねている。また、利用者を定期的に訪問する行政担当課職員もおり、互いに連携している。行政が行う介護教室を法人が依頼したり、研修案内が届くと職員に回覧し、受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束委員会を設置し、事業所で取り組んでいる事を委員会の会議にて報告している。やむを得ず拘束する場合は解除することを前提にご家族の理解、同意を得ている。	法人として設置している身体拘束委員会では定期的に委員会を開催している。現在、4点柵の身体拘束を行っており、毎日の記録を家族に開示して報告すると共に解除に向けて話し合いを重ねている。言葉による拘束は都度注意し、年3回行う勉強会で事例を基に話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の尊厳を守ることを第一に考え、ケアを行っている。また、勉強会を開く事で再認識、問い直す場としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を事業所で行い、職員全員が理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、改定があった場合は随時説明・確認を行い、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族会・喫茶会・運営推進会議・電話連絡・面会時に意見要望を聞き、運営に反映させている。	法人主催にて新年祝賀会、敬老祝賀会を開いており、家族が参加している。苦情受付窓口や流れは契約時に説明し、家族の訪問時にはフロア職員が挨拶し意見など言いやすいよう努めている。事業所では家族会の他、職員手作りのおやつを提供する喫茶会もあり家族が訪れている。家族アンケートから更に参加できる機会を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア一会議・介護会議を開き、質問意見があれば出してもらい、解決できるよう努めている。	年1回、管理者が職員の個別面談を行っており、面談で得た内容によっては理事長に報告・相談している。また毎月フロア会議を行い、積極的な意見交換があり、ゴミ出しのタイミングやオムツの処理方法の統一を図っている。行事後に職員アンケートを取り、次回に反映するなど職員意見の反映が確認できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設全体で資格取得の為に勉強会を行ったり、職員の健康管理、ストレスの要因への気配り等、働きやすい職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全体、各フロアごとに勉強会を行っている。外部研修にも積極的に参加し、職員会議での発表も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流機会は少ないが、研修会へ参加し情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中から、不安・不満に思っていることがないか、意識しながら積極的に声掛けを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望等を事前に聞き、話し合いをしながら入所後の相談にも繋げていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、ご本人・ご家族とよく話し、必要としているサービスを支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちに寄り添いながら話に耳を傾け、楽しみが増えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人や、ご家族の意見を尊重しながらケアを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の自宅までドライブに行ったり、近所の方々とのお話をし、希望があれば施設からも電話して面会をお願いしている。	家族だけではなく、近所だった人がおやつを持参して訪れたり、女学生時代の友人の訪問や電話が掛かっている。これまでに聞き取った話を基に会いたい人と会った事例がある。毎月自宅までドライブして近所の人とお話したり、家族と一緒に美容室や外出に出掛ける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション行事ではなるべく参加していただくよう声掛けを行い、フロアで他のご利用者と楽しく過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もご家族からの相談を随時受け付け、できる限りの支援をしていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中でご本人の気持ち、思いを汲み取ったり、ご家族からの情報も得るようにしている。	日頃の世間話から本人の意向を聞き取ったり、表情や様子から思いを汲み取っている。難聴の場合は耳元で語り掛けている他、日頃の様子を見て本人の希望等を判断したり、家族に尋ねている。化粧水にこだわりがある利用者には要望に沿って支援している。ただし、新たな生活歴は介護記録に記しており、迅速な確認には不向きである。	利用者個人の生活歴は、職員が支援の参考として重要な情報である。利用者の思いや意向等、新たな情報がわかりやすく閲覧できるよう、記録や情報共有方法等の検討、取組みが待たれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中で、これまでの生活歴・環境・暮らしをお聞きし、サービス利用に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活リズムを把握し、一日を楽しく過ごして頂けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き、ご家族・ご本人の思いや意見を聞き、ご本人の意向に沿った介護計画を作成している。	情報や本人、家族等からの聞き取りを基にした暫定プランを利用開始時に準備しており、1ヶ月で作り直している。長期6ヶ月、短期3ヶ月の目標設定があり、変化があれば即見直しを行い、見直し時には毎回本人・家族の意向を聞いて介護計画に反映し、作成して本人・家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに記録し、職員全員で情報の共有を行っている。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院送迎等、ご本人・ご家族の要望を臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回の運営推進会議や地域支援、支援サロンなどに参加し、地域とのつながりができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望によりかかりつけ医を継続している。病院受診、往診など看護職員が付き添っている。	これまでの主治医の継続もあるが、家族の希望で協力医の移行が多い。看護師が受診支援を行い医師の指示で家族も同行している。2週間に1回、系列事業所での往診がある他、必要に応じ歯科の往診もあり受診結果は家族と共有している。夜間急変時は看護師と協力医の連携で適切に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼にてご利用者一人ひとりの状態報告を行っている。個別で異常がある場合は直接看護職員に診てもらい、適切な受診が受けられるような体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを使用し、必要な情報を提供している。退院に向けて支援ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に管理者、看護職員、ケアマネージャーより説明を行う。重度化した場合ご家族と方針を話し合い、看護職員・かかりつけ医と協力しながら支援に繋げている。	重度化に関する指針があり、利用開始時に説明し同意書を得ている。医療行為を伴う看取り支援は行わないが、段階を踏んで家族と方針を話し合い、医師、看護職員の連携で家族の意向に沿った支援に繋げている。家族の希望で系列事業所への入所を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会や、外部研修など定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災訓練については消防署立会いの下、ご利用者と一緒に訓練を行っている。地震・水害についてはマニュアルを作成し、年一回法人で合同訓練を行っている。	毎月利用者も一緒に自主訓練を行っている。11月に夜間想定にて消防署立会いの避難訓練を実施しており、訓練後に講評、指導を受けている。敷地は地すべり地区であり、自然災害マニュアルを整備し9月に土砂災害の避難訓練を行っている。ただし、夜間想定訓練の未経験者がいる他、非常持ち出し品の整備、避難後の確認等、実際を想定した対策と取組みに期待したい。	安全に利用者が避難誘導できるよう、夜勤者は必ず夜間想定での避難訓練の経験を積むことが望まれる。また、非常持ち出し品の整備、避難後の確認等、実際を想定した対策と取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より一人ひとりに合わせた声かけ、目上の方に対しての言葉遣いを気をつけながら対応している。	職員は利用者を目上の人に敬意を払い、名前にさん付けで呼んでいる他、浴室やトイレのドアはきちんと閉め、トイレ誘導はさりげなく行っている。家族には、写真掲載の同意を得ており、職員は守秘義務の誓約書を提出している。ただし、パッドの置き場所や居室、トイレのドアのすりガラスは、内部の様子がわかる等の課題がある。	利用者のプライバシーへの配慮として、トイレ内のパッド類の保管方法の工夫が待たれる。また、居室、トイレのドアのすりガラスは、動作がわかるため、職員の支援には役立つものの、本人のプライバシー保護、尊厳への配慮から検討、取組みが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意見を第一に尊重し、希望や思いがはっきり聞き取れない場合は、ご本人に合ったアドバイスなど自己決定ができるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	離床時は希望があれば時間を置いて声掛けを行い、食事や入浴も個々のペースを大切に考え支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時などには頭髪や服装を整え、ご本人の希望する衣類を中心に着用して頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年度より外食サービスを利用している。食事が楽しみになる様に摂取方法を考え提供している。行事食の時は手作りで提供できるようにしている。	朝昼夕の食事は外部業者を利用している。職員は、利用者ごとの嗜好を把握しており、代替食を提出することもある。法人主催の敬老祝賀会では会場内で寿司職人が本格的に寿司を握り、利用者は家族と共に満喫している。喫茶会、お茶会では職員の手作りおやつにて楽しい時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みが困難な方にはとろみやきざみ食を提供し、栄養バランスを確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、歯間ブラシや義歯洗浄を行う。また、希望があれば歯科医の口腔ケアを利用し、清潔保持に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けを行い、排泄を促す。夜間は室内にポータブルトイレを設置し自立を支援する。	職員は利用者の仕草から排泄のタイミングを逃さず声掛けしている他、排泄チェック表を利用し、利用者を定期的にトイレに誘導している。本人の希望で居室内に設置したポータブルトイレを使用する場合は、使用するたびに洗浄し臭気が籠らないよう配慮している。これまでにオムツからリハビリパンツに改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後に飲むヨーグルト等を提供し、日中は水分を多く摂取して頂く。腹部マッサージ、運動などを実施し予防に取り組む。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後と入浴できる時間を分け、なるべくご本人の希望に合わせて入浴を支援している。	週2回の入浴を基本として支援している。ユニットによっては、浴室が広いこともあり仲のよい利用者2人で入浴している。車椅子利用者はシャワー浴である。回数多く入浴を希望する利用者は、介護計画に記して他のユニットでの入浴も含めて支援している。職員は、入浴剤や季節のゆず湯など楽しい入浴となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力に応じ臥床を促し、エアーマットや保温マットなどで安眠が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋を見て、薬を照らし合わせ、確認をしている。新しく処方になった薬に関しては経過を観察し、看護職員へ報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、お盆拭き等の家事作業をして頂いたり、気分転換になるように行事や散歩、レクレーションへの参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春は花見ドライブ、秋は紅葉ドライブ等四季折々に戸外に出かけ季節を感じて頂けるように支援している。希望があれば、ご家族との外出ができるよう支援している。	普段から車椅子利用者も一緒に外気浴している。また、車椅子が乗れる大型のストレッチャー車輛があり、回数多く季節の花見見物やドライブに出掛けていることがわかる。また、希望に沿って個別の買い物他、不穏な状態で外に出掛けたい様子の時にはドライブしている。家族と一緒に自宅や温泉に宿泊する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でやっているが、週2回の訪問販売時に好きな物を選んで購入したり、買い物ドライブでお金の大切さを理解して頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話をすることはないが、ご家族からの電話にはご本人が直接会話されることでご家族に安心感を持って頂いている。また、手紙のあて名書きや切手の購入・投函の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア歩行時に危険になるような物は置かず、安全に移動歩行ができるようにしている。また、季節や行事ごとにあわせて飾りつけを行い、季節感を味わっていただくように工夫をしている。	窓からの景色や飾り付けで、季節を感じるができる。リビングには、掘りごたつのある和室やテレビの前にはゆっくり寛げるソファがあり、利用者が職員手作りのゲーム、漢字の脳トレーニングなど思い思いに楽しんでいる。毎朝掃除機やモップ掛けを行い、清潔で温湿度も管理しており快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置き、いつでも利用できるようにしている。また、テラス側の椅子に座って外の景観を眺めたりと、自由に過ごすことができるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には手作りの物を壁に飾ったり、自宅で使用していた家具や装飾品・仏壇を置くなど、ご本人が安心できるように工夫をしている。	居室はベッドとクローゼット、洗面台を設置している。畳やフローリング仕様で自宅から仏壇、タンス、椅子などを持ち込み、家族の写真やカレンダー、時計、化粧品なども見える。仏飯のお供えや新聞購読、読書など自由に過ごしており、掃除は職員とできる範囲でモップ掛けを行う利用者もあり清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉に印をつけたり、トイレ等も一目でわかるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201926		
法人名	社会福祉法人 アソカ仁寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 あそかのもり 2階		
所在地	長崎県佐世保市松瀬町1171番地1		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2階では個々の状態・要望に合わせて、個別の対応を行うように努めています。通院や買い物のためのサポート、入浴日(週2回)に限らず入浴できるよう調整を行うなどご家族とも相談しながら個別ケアを実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と礼儀」「愛情と真心」を法人理念として、日々サービスの向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパーなど買い物に出かけたり、幼稚園・保育園との交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設訪問、介護教室、老人会に出向き認知症について事例を上げて説明。相談等を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は二か月に一度行い、報告だけでなく利用者のサービス実施に対して参加者に助言をもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議だけでなく、市役所に出向いた時など相談しながら連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に事業所全体で取り組んでいる。安心して暮らしていけるようご家族に対して説明をし、理解していただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議、朝礼等で職員に周知し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方はいないが、勉強会は事業所全体で行っていき、必要時に支援できるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書や重要事項説明書をもとに説明を行い、改訂時にはその都度説明・確認を行い、同意を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入り口の意見箱の活用や、面会時に要望を伺い、日常のケアへ取り入れるよう努めている。運営推進会議でも情報を開示し、意見を頂く機会としている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、職員会議やフロア会議を行い、職員間での意見交換の場としている。また、職員用の意見箱も活用している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内部・外部の研修に参加し、職員のスキルアップを図っている。また、処遇改善加算の算定により賃金が改善され、意欲が向上している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士や介護支援専門員の資格取得に向けての勉強会実施や、回覧にて外部研修の案内を行い、希望者には参加できるよう勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域支援活動への参加によって他法人、事業所の取り組みを把握したり、包括支援センター職員も参加する会議の中で福祉事業の新しい情報を得られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に話し合ったり、要望を聞いて楽しく生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と相談し要望を聞いたりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と話し必要なサービスが受けれるよう支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お盆をふいたり、新聞をたたんだり、できることをお願いしている。 職員と一緒に生活できるよう声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月施設広報誌を送ったり、電話で日常の状況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族など面会に来ていただいたり、近所のスーパーへ買い物に出かけたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなど参加していただき、一緒に楽しみ、支え合うよう支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があれば随時支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言葉や表情で確認したり、職員・家族間で話し合いを行い、支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から今までの暮らし等を伺い、具体的な情報を集めて支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者のリズムを観察し、生活全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行い、本人・家族の希望などを取り入れ、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に、「ケア内容結果」を記入する欄を設けている。 情報を毎日共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急の受診や、ご家族の状況要望に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に加えて、外部との会議、勉強会への参加により新たな情報を収集し、支援事業に役立てている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じたかかりつけ医との細かな情報交換により、適切な受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態把握を行い、随時看護職員に申し送り・相談により情報共有するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーによる情報提供により適切な治療が受けられるよう、常に病院関係者との連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めに家族との話し合いを持ち、意向確認や適切な支援の内容をかかりつけ医とも相談するなど、本人に見合った方針を決めるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急的な対応、初期対応について必要に応じて勉強会を行い、急変時、事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災、自然災害時を想定して、避難・誘導訓練を消防署や消防団立会いにより行い、指導を受けている。災害訓練は法人全体で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみある言葉遣い、年上を敬う言葉遣いで心地良い環境を作るよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に応じた希望や要望を聞き、ご本人の納得するまで話し合い決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や気分等に合わせたペースで生活できるよう、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の方々が好きな服装を選ばれたり、職員と一緒に選んだりし、身だしなみも職員が介助しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年より外注食になっているが、季節を感じる献立や喫茶会・行事食の手作りもあり、喜ばれている。また、ご利用者の好みに合わせてその日の献立の変更も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合わせて個別に食べやすい食事形態で提供し、水分にもトロミをつけている。摂取量が少ない方には、本人が好む食べ物、飲み物を補食として提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、介助が必要な方には歯間ブラシや巻綿子も使用し実施している。また、歯科医の口腔ケアを利用し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、利用者の排泄状況の把握に努めている。状態を見て声掛けにより排泄を促したり、トイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを設置し自立を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分提供し、摂取を促している。起床時には飲むヨーグルト等の提供、運動の声掛け、腹部マッサージや散歩を実施し、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべくご本人の希望に合わせた時間帯でゆっくり入れるよう支援している。体調等により入浴日に入浴できなかった場合、他のフロアで入浴ができるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や個別の体力に応じて休息の時間を作ったり、エアーマットを使用し安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を備えて確認している。用法・容量の変更があった場合は職員間で申し送りし情報を共有している。また、状態の変化を観察・記録し、看護職員へ報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業や負担のない役割を持ち、張り合いのある生活を送れるよう支援している。移動販売車での物品購入や個々に合わせた嗜好品の提供、散歩や日々のレクリエーションで気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて散歩に出かけたり、計画を立ててドライブや外食を実施している。ご家族より外出等の希望がある時は、外出できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方や、手元に置いておきたい方は、少額所持して頂いている。買い物レクレーションや移動販売の時に使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば取り付いたり、ご本人にかけていただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から風景を楽しむことができるようにカーテンを開け、光を取り入れている。居室、フロアーのエアコンにて年間通して適切な温度調整を図っている。フロアーは、季節感ある飾り付けを毎日行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには食事用テーブル、ソファを備え、また外を見渡せるような場所もあり、一人で過ごしたり、他のご利用者と一緒にゆっくりお話が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持参して頂き、自宅のように過ごせる環境作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身でできる方はクローゼットに衣類をしまっ頂いたり、自室洗面台を使用して歯磨きや整髪などできる範囲で行い、職員が見守り・確認を行うようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201926		
法人名	社会福祉法人 アソカ仁寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 あそかのもり 3階		
所在地	長崎県佐世保市松瀬町1171番地1		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>行事、レクリエーションの充実、ご利用者と共に楽しんで頂けるよう毎日支援に努めています。個別ケアについてもご利用者が出来る事を見極め、職員手作りの物を用いて実施しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と礼儀」・笑顔にて仕事に取り組み、親しき中にも礼儀ありを大切に、ご利用者と共に楽しく日常生活を送れるよう支援を行う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サロンへの参加や幼稚園児、ボランティアによる訪問など交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で介護教室を協力して開催。専門講義に加え、その場での質疑応答で有効なアドバイスができよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催により、事業所の日常の状態報告を行い、意見・助言をもとにサービスの提供に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者やご家族からの意向や相談で対応困難な時は、管理者やケアマネージャーを通して市の担当者に報告を行い、適切な対応など助言を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に職員全体で取り組み努力している。ご家族にも説明を行い、理解して頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュースでの情報をスタッフで共有し、チームワークにて防止の徹底をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を事業所で行い、職員全員が理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時や改定があった際、管理者、ケアマネージャーを交えて随時説明・理解・同意(書)を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回、家族会の開催や意見箱の設置で自由に意見や要望を出してもらっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度は個別に管理者と話し合う場を設けて、職員それぞれの意見を取り入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修へ参加し、スキルアップを図っている。働きやすい環境作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会へ積極的に参加し、職員が定期勉強会を主催することで全体の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流は少ないが、地域サロンへなどに協力し、幅広い知識の確保やネットワーク作りができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	悩みや心配事の相談を本人が安心して出来る環境・関係を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや、必要としているサービス等を伺い、施設でできる事を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの相談を受けた時は、何が必要なかを確認し、サービスに繋げることができるようにする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で一緒に出来る事は職員と行い、出来ないところを手伝いながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠くにいるご家族の方へご利用者の様子等を報告し、安心して頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別対応にて近くのスーパーまで外出支援を行っている。マンツーマン対応し、リフレッシュしていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル座席を変えたり、ゲーム・レクリエーション等にて仲を深めていただいている。また、足浴で心地よい時間になるよう会話をしながら配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退所や、特別養護老人ホームへの入所時には、本人や家族が不安にならないように相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり違う対応が必要となるため、ご利用者の意向を大切に一緒に楽しみながら、一緒に過ごしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	レクリエーションや会話に、子供や昔の生活を話題にあげ、会話をふくらませると忘れていた事を思い出されたり、当時に懐かしまれる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の希望を伺い、ご利用者に合う生活リズムを作るよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時や電話があった時、事業所への希望やご利用者の生活等希望を伺い、プラン作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フロアリーダーを始め職員同士の報告、連絡、申し送りを行っている。 フロア会議を月1回行い、業務・個別ケアの把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の希望があれば買い物・受診等対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議でのいろいろな立場からの意見を伺っている。移動販売や訪問理美容などを活用し、日々の暮らしが楽しくなるよう支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医や専門分野でのかかりつけ医を把握している。なるべく希望に沿った治療ができるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝朝礼を行い、ご利用者個々の状態を報告。薬の処方、受診、回診の必要性を含め適切な健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護職員からの詳細な状態の説明と迅速なサマリーの提供。退院に向けても必要な情報が得られるよう病院やご家族と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化での対応については入所時に説明を行い、理解を得ている。施設でできる限りの対応を行い、状況変化があればその都度話し合うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、AEDの使い方や初期対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年一回消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。法人の訓練時は消火器の使い方も教えていただいている。地震・水害訓練も年1回法人全体で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会にて男性職員が女性のご利用者を紹介する際の配慮、声かけを学び現場にて実践している。ご利用者に対しての言葉遣いにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとり、本人の意思を尊重し、職員が決めつけず、自ら決定してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、個別ケアを一番に考えケアにあたっている。朝が弱い方にはゆっくり朝食を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者が女性ばかりなので入浴後や起床後に声掛けをし、化粧水をつけたり洋服を選んだり、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年より外注食になったが、行事食は手作りを提供し、ご利用者に喜んでいただいている。毎食後の片づけをできる方には、一緒に手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の希望される飲み物を提供し、入浴前後の飲水にも努めている。治療食の方は、カロリーを考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを徹底し、食前にはうがい、手洗いをを行う。自立の方も見守り、観察が必要な為、側についている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のレベル低下みられた方は尿を測り、尿量、パターンを把握し、トイレ誘導を時間見ながら行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の取り方や量、食事、歩行、体操をするなど日々気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	火曜日・金曜日が入浴日になっているが体調不良で入浴できない時は他のフロアでの入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者のリズムに合わせて休んで頂いている。 室温調整を行い、安眠できるよう日頃から体調管理にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい内服等処方時は申し送りを確実にし、把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事レクリエーション、家事手伝い、散歩、外出等を行い、気分転換が図れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物ドライブや季節の行事等を計画し、楽しんで頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売や買い物ドライブ等で、お買い物を楽しんで頂く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者より電話の希望がある時はお手伝いをし、電話がかかった場合も取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾って心地よい空間で日常を送れるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い窓側にベンチ椅子を用意し、外の景色を眺めたり、思い思いに過ごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やプレゼント、作成したもの等を飾り、ご利用者が居心地よく過ごして頂くように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者のレベルに合わせ、安心した日常生活が送れるような表示をしたり伝えるようにしている。		